
本気希望自己制限世界

阿音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

本気希望自己制限世界

【Nコード】

N2894W

【作者名】

阿音

【あらすじ】

気付いた時にはポケモンの世界へ…… 何が起こった？ そして何故俺はここに？ とりあえず元の世界に戻るなら旅をした方が良さそうだな。よし、こうなったら走り回ろう！（主人公はこんな好青年ではありません）注意 この作品の主人公は同作者の本気禁止制限決闘、本気可能無制限学園の主人公と同じです。そちらを読まなくても支障は無いようにするつもりです。なお、本気禁止制限決闘、本気可能無制限学園は未完結の作品です。本気禁止制限決闘や本気可能無制限学園の最終話と繋がりが見つからなくても気にしな

いでください。一応、遊戯王GX卒業↓番外編の遊戯王5D・s終了後↓ネギま！↓ポケモン世界という順番となっています。その点を踏まえて読んでください、基本的に出てきませんが。

0話【VS?????】（前書き）

またやってしまいました……ごめんなさい

時間が無く、ネタは浮かぶのに纏め書きができないのでなかなかやる気が出なく

気分転換という感じでまた別作品に手を出してしまいました。

この作品はあらずじにも有る通り、本気禁止制限決闘や本気可能無制限学園の続編となります

なので遊戯王やネギま！の話が所々に出てきますが、本編との関わりはほぼ有りません

というか、遊戯王などの話をこの作品に持ち込む気は一部を除いて全く有りません

少し遊戯王などの用語が出てきますが、無視しても話に支障は無いので気にしないでください

しかし、本気禁止制限決闘や本気可能無制限学園は現在未完結の作品です

もしかしたら矛盾が出てくる可能性も有りますが、あまり気にしないでください。

なお、主人公の性格はかなり悪いです

自分で言うのもアレですが、読者をかなり選びます

性格の悪い主人公が嫌という方は読まない事を勧めます

屑です、外道です、最低です、死ねよお前と思います

それでも良い方はどうぞ、自己責任でお願いします。

更に、原作キャラへの扱いが確実に悪くなります

しかもほぼ全員悪くなるでしょう……まだ0話なので断言できませんが

それが嫌という方もお戻りください
作者は自分が好きなキャラでも容赦をするつもりはありません。
(寧ろ悪化の可能性有り)

……原作キャラの大半の扱いが悪くなるでしょうが
一応言っておきます、作者はポケスぺの漫画はかなり好きです
あのキャラが嫌いだからこんな事をするのか、そんなにこのキャラ
が憎いのか

などという意見も出るかもしれませんがもう1度言います
作者はポケスぺは好きです、それだけは一応知っておいてください
……だからといって、扱いを良くするつもりは有りませんがね
そのような意見が出てきても、作者はそう答えるしかありませんの
で……悪しからず。

……はい、ネギま！のコピペです
でもその通りなので問題ありません
更に初っぱなから相変わらずの主人公ですが
見捨てないでくれると嬉しいです。

0話【VS?????】

視点 瑞貴

.....どこだ、ここ？

というか寒い！ 少しは厚着しているみたいだが寒すぎる！
にしてもここは洞窟……だよな？

「ぐす……わーーーーーん」

泣き声？ しかも声の高さから考えてまだ子供の女の子
何故こんな場所で泣き喚いているのやら……
はぁ、さすがに洞窟で喚かれるのも耳障りだ。

「何故泣いているんだ？」

「ひっ！」

何故怯える？

急に大人が話しかけたから……いや、待て俺
また身長が縮んでいないか？

……まあいいか、もう何回も経験してるし
後で適当に確認をすればいいだろう。

「怖がらなくても何もしない
泣いていた理由を言え」

警戒してるのか、怯えているのか
なかなか何も言わないガキ……あー面倒だ
どうせ、親とはぐれたとかそんな理由だろ。

「おとーさまが……いないの」

大正解、俺の勘がいいのかパターン通りなのか悩むな
後者だろうけど、本当に面倒だ
ここがどこかも分からない状態で更に厄介事とはね。

「一緒に探してやろうか？」

「ほんと！？」

「本当だが、少し教えてもらいたい事が有る」

「なに？」

子供に訊いて分かる事じゃないとは思うがな
変に詮索される大人よりは楽か
問題は知識が曖昧だったりするから信じられるか微妙という点かな？

「ここはどこだ？」

「ここ？」

「えーちこよー！」

「えーちこ？」

「えーちは分らんが、こは木？ 庫？ 湖？ 壺？
洞窟という点と水溜まりが有る事、寒さから考えて湖だろうか？」

「何をしに来たんだ？」

「おとーさまのおしごと！
でも……」

はぐれたと……こんな寒い場所で仕事？

日本語で話しているし、北海道とかそんな場所にも出たのか？
しかしえーちなんて場所は有っただろうか？

この子供、着ている服は上等な物だろうと思われる事からお嬢様っ
ぽい

旅行とかかと思ったが……もしかして左遷されたのか？
だが仕事だと言っているし、調査とかだったりとかか？

しかし金持ちがそんな調査の仕事をするだろうか……意味が分から
ん。

さて、いつまでも子供に付き合ってられんな
問題はここからどうするかだ。

最初の問題はこの寒さ

これは洞窟の奥に潜れば多少はマシになるはず
外はどんな場所なんだろうか？

次は食料……これは難しい

状況から考えて、この場所は常に寒いか冬
こんな場所で食料を手に入れるのは困難。

最大の問題はここがどこだか全く分からないという事
えーち湖だかなんだか知らんが、俺は知らない場所だ

少なくとも、日本に存在していた記憶は無い。

……まあ、今まで通ってきた世界で過ごした場所も記憶に無かったが、それはいい

だが何も分からない状況なのは問題だ

少しでも情報を集めないと……ん？

気のせいかな、今洞窟内の水溜まりに何かが映ったような……

そう、黄色くて丸い頭をし、額には赤いルビーのような宝石

身体はグレーのような色をして、尾が2本……あの生き物はなんだ？

「いま……なにかいた？」

どうやらこの子も見ていたらしい

あの生き物は……俺は知っている？

もう遠い昔になる、昔に……

待て、昔だと？

という事はまさか……また何かアニメとか漫画の世界か！

今回はどの世界に移動したんだ！？

この考え事が、俺自身の行動を遅らせる事になってしまう

水溜まりから先程の黄色の生き物が飛び出し、突撃してくる

突然の事に驚き、動けない俺と女の子。

もっと俺が冷静ならば、女の子を蹴り飛ばすなりして移動させ、自分も逃げていた

だが俺はこの時、庇うようにしてしまった……自分が突撃してくる生物の盾になってしまうように

しかし、これが俺にとって最高の行動となる。

9

寧ろ頭痛程度で済んだと言った方が正しいかもしれないな。

それはそうと……ユクシーの光で気絶したらしいこの女の子
放置するのはちょっと遠慮したいが、連れて行くのも嫌だ
どうも金持ちの娘っぽいし、誘拐にでも見られたら困る。

ふと思いつく

俺のポケットには何故かその世界に合った様々な物が入っていた
今までの世界でそうだったのだ、この世界ではどうなのだろうか？

ポケットを探り、手応えを感じる

ポケモンの世界だからと考えながら出した道具は……ボールだった
モンスターボール……いや、紫色で中心上部に書かれたMの文字
更に左右上部には白い円が……名前は確かマスターボールだったか？

他には……おおう、金も相変わらず入っていたな

そしてこの道具は傷薬にマックスアップ……と、ラベルに書いてい
るな

効果は体力の回復に体力を増やす薬品ね。

他に何が出てくるかな……石？

黄色の石であり、中に雷のようなマークが入っていた
確かこれって進化の為の石じゃなかったか？

さすがに道具の知識は手に入らなかったか

ユクシーは古くから存在しているポケモンだ

となると道具の知識は無いと思っていた方が良さそうだ

道具なんて調べるなり使うなりして確かめればいいんだしな。

さて、道具の事は後で考えよう

今はこの子供だが、仕方無いか。

女の子を背負い、この場所から移動する
洞窟から出ると辺りは雪景色……寒くて当然だな
こんな場所に長時間居たら凍えてしまうな。

しかも辺りは湖、しかも孤島だった
この子が言っていたえーちこのこは湖だったんだな
って、解つても困っている状況に変わりは無いんだったな。

さて、さすがに女の子が1人で孤島に来るはずが無い
となるとどこかに保護者が居るはず……お
向こうに研究者っぽい見た目をした男女が居る
しかも何か探している事から、この子の両親かな？

脅迫して身代金でもいただくのも悪くないんだが
それよりも何かポケモンでも戴くかな？
この世界ならそれぐらいしかできそうにないが
だがそれでも十分、この世界で生き残る為には……後者かな？

何か道具は……お？ 紫の布に鋭利な牙か
この世界は特殊な道具が色々と有るらしい
もう殆ど記憶に残っていないから使い道は思い出せないがな。

布で顔と身体を隠し、鋭い牙を女の子の首筋に添える
さて、脅迫させてもらおうか？

「捜し物ですか？」

隠れながら近づき、傍に寄って声を掛ける

驚いた研究者のような男女は慌てて俺の方を向く
なお、女の子は布の中に隠している。

「そ、そうなんだ！

娘が行方不明で……」

「この辺りで4歳ぐらいの女の子を見ませんでしたか！？」

大正解、この女の子の両親だったらしい

そうと分かれば次の行動も自然と決まってくる。

「女の子？

その女の子というのは……こんな子ですか？」

「「な！？」「」

布を捲り、牙を首筋に当てている姿を見せる

両親は驚き、俺を睨んでくる

悪いな、何も分からない状態でただで親切にしてやる程余裕は無い
んだ

生きる為だ、悪いとは思うが運が悪かったと諦めてくれ。

親切にし、恩を売った方が後々良いんだろうがな

だが先より今、この瞬間が問題なんだ

それに会う事ももう無いだろうし、興味も無い。

「君は……娘を人質にするつもりか！」

「大正解、少々事情が有ってね

金と手持ちのポケモンを渡してもらおうか？」

「……どれだけ欲しい？」

「有り金全部と手持ち全て……と、言いたい所だがな
死なれたりしても困る、有り金の半分とポケモンは3匹貰おうか？」

男は黙って財布を取り出し、札束を渡す……って、本当に金持ちだな
ふむ……少なくとも見積もっても20万は有るよな？

普段から持ち歩いているのか？ だとしたらやはり相当な金持ちだ。

続いて腰に付けているボールを俺に3つ渡す

中身は何かなっと、中心の白いボタンを押して出してみる。

炎の鬣をし、足も燃え、更に額に角を生やした馬のような生き物

黄色い身体に尾が生え、猫のような耳をした生き物

緑色のハエトリソウのような形をし、手足が植物のような生き物

姿を見て俺の知識がこいつらの情報を教えてくれる

燃える馬はギャロップ、植物はマスキッパ、尾と耳はケーシイか……

「ありがたく貰っておく

安心しろ、大事に使ってやるし、場合に寄っては返してやるよ」

「貴様……」

「それより早く娘を返して！」

その言い方はポケモンなんてどうでもいいから娘を返せと言っているようなものだぞ？

ほら、戴いた3匹も少しだけ微妙な顔をしてるし

でも仕方無いって顔もしてるから……まあなんでもいいか。

俺は娘を運び、木に凭れさせる
そのまま少し離れ、距離を取る。

「気絶しているだけで大事は無い
俺はこのまま去らせてもらう」

両親は娘の傍に駆け寄り、抱きしめる
その隙に俺ギャロップに跨る

ふむ……こいつはどうも慎重な性格をしているらしいな
だが俺に反逆する隙も伺っているが我慢している……どうやら我慢
強いらしい。

「俺に逆らうなよギャロップ
もし妙な真似をしたら……」

ギャロップの首筋に毒針を突きつける
燃えている身体ながらも、ギャロップは冷や汗を流している。

「俺は本気だぞ？
死にたくなかったら、暫くは俺の言う通りに動いてもらう
安心しろ、気が向いたら解放してやる」

警戒しながらも、ギャロップは俺の指示に従うつもりらしい
今逆らっても何も得は無いからな。

「今なら少しだけ、持ち主と別れの挨拶ぐらいさせてやるぞ？
最後の情けだ、したいのなら今の内にしておけ」

ポケモン達はお互いに見合わせ、両親の近くへ行く

両親は気付き、気まずそうな顔をして顔を背ける
ポケモン達はそんな両親に悲しそうな雰囲気を出し、頭を下げる
どうやら今までありがとうと伝えているようだ。

「もういいな？」

頷くポケモン達

俺はギャロップ以外をボールに戻す。

「さて、もう二度と会わないと思うが、感謝する
そうそう、余計な事はしない方がいいぞ？」

もし何かしたら……再び娘は攫われると思っておけ
俺に渡したケーシイの存在を忘れるなよ？」

ケーシイはエスパータイプの念力ポケモンだ

しかも使用できる技はテレポート……つまり簡単に人攫いができる
更にこいつはこの研究者のポケモン、当然娘だって知っているだろう
つまり、奪おうと思えばいつでも簡単に奪えるであろうポケモンだ。

「君は何者なんだ？」

「教える義理は無い」

ギャロップを走らせ、女の子の両親と別れる

あいつらがどうなろうと、死ななければどうでもいいし興味も無い。

「さて、ギャロップ

お前はあの研究者達がこの小島に来る為に使ったボートとかの場所
を知っているか？」

知っているのならそこに案内してもらおう？」

驚くギャロップだが、首を横に振って拒否する
当然だろう、もしそんな事をすればあの3人が帰れなくなるのだから。

「いいか、ギャロップ

あの2人から渡されたのはお前にケーシィ、そしてマスクィパだ
分かっているとは思うが、ケーシィはテレポートを使う事ができる
もし乗り物を使ったとしても、元の場所にテレポートさせて戻せる
んだ

だからあの3人もちゃんと帰れる、だから案内しろ」

暫く考えるも、返すという言葉信じたのか移動し始める
最初からそうすれば良かったんだよ

面倒な奴だが、奪ったポケモンなんだから当然か。

少し進むとボートが置いてあった

さてとつと……どうやって操作するんだ？

適当に触っていたらどうにかなるかな？

おっと、さすがに指紋を残すのは拙いな

さて何か……ん？ スカーフがポケットに入っていたか

これやさっきの布の上から操作すれば大丈夫だろう。

ギャロップをボールに戻し、適当に操作する

するとなんとか動きだし……突然動き出したあ！？

これはどうすれば止まるんだ！？

しかも少し走っていると陸が……どうやって止めればいいんだ！？
あー……このままだと陸に直撃して危ないよな？

つて、冷静に分析している場合じゃなかった！

「ケーシー！」

テレポートで俺を陸まで跳ばせ！」

ケーシーは状況をすぐに理解し、テレポートを使った
気付けば俺は陸に移動していたんだが……

「……ボートが壊れたらしいな」

ボートは陸に勢いよく上がり、そのまま木に直撃
完全に大破してしまったようだ
どうする？ これではテレポートでケーシーに船を送ってもらって
も動かないだろう。

仕方無い、こうなったら1匹諦めるかな

さすがに死なれたら目覚めが悪い

別に生きていようが死んでいようが興味は無いがな
そう思い、俺はボールからポケモンを出す。

「マスキッパ、お前は常に浮いていられるな？」

なら先程の3人の場所まで行き、陸まで運んでやれ
その後は研究者の手持ちに戻るがいいさ」

マスキッパは俺の言うことを理解した途端

急いで雪の中を飛んで戻って行った

手放すのは少々惜しかったが……まあ構わんだろう。

ケーシーをボールに戻し、ギャロップを再び出す
その背に跨り、移動を促す。

「さてギャロップ

近くに町とかが有るか知っているか？
知っているならばそこに向かってくれ」

逆らっても得する事は無いと思ったのか、素直に駆けるギャロップが、少々速すぎないか？

そこら辺にもポケモンがうろつろつしてるし、轢いたりしそうなんだが？

しかし、そんな事は無く町は辿り着いた
町の目の前には看板が立っていた
キッサキシティ、氷煌めく雪の町……か。

お、良い具合に船が有るじゃないか
丁度良い、この寒い町からさっさとおさらばさせてもらおう。

ギャロップを走らせ、船の近くまで行く
問題は飛び入りで乗れるかだが……まあいいか
無理なら無理でケーシィのレポートで侵入でもすればいい。

「すみません

この船はどこに向かうんですか？」

「この船はクチバシティに向かうよ
乗るつもりなら手続きさえして貰えば大丈夫
乗客が少なくてね、部屋は空いているよ」

適当な船乗りに話しかけた所、嬉しい知らせを貰った
クチバシティがどんな場所かは知らないが、ここより寒い事は無い

だろう

ならさつさと乗り込むか。

ギャロップをボールに戻し、手続きを済ませて金を払い、船に乗り込む

船の中は普通に暖かったが、当然と言えば当然だろう
これで寒かったら客船として問題だろうしな。

さて、これから移動か…… とりあえず情報だ

クチバシテイという場所に着いたら何かしら情報収集をしないとな
ボートも有ったんだ、科学もある程度発達しているだろうし

PCぐらい有る…… よな？ 少し不安だ。

……

……

……

ふああ…… 長かった、まさか丸一日使うとは思わなかった

こっちは普通に暖かいな、また寒かったらかなり困っていたぞ
どこに行こうかなと…… 最初は機械が有る場所だな。

ポケモンセンターか、ここなら何か有るだろう

そう思い、とりあえず入ってみる

通信機械、PCのような物とそれなりに機械は充実しているようだ。

とりあえず機械を起動させ、なんでもいいからニュースを見る
何か有益になりそうな情報は無いだろうか？

暫く探すものの、出てくるのは犯罪組織の被害報告ばかり

そんなのはどうでもいいから俺の役に立つであろう情報をだな……
待てよ？

犯罪組織の目的はなんだ？

金か？ それともポケモンか？

世界征服なんてつまらない目的なら呆れるが。

とにかく犯罪組織、ロケット団を調べ始める

どんな些細な情報も、不確かな情報も調べ上げる

その結果、ロケット団の目的が少しながら浮かび上がった

生態研究に新たななるポケモンの創造か……

決まりだな、俺のこの世界での目的

それはロケット団からその新たななるポケモンを戴く事としよう

もしそいつが時間、空間、世界などに関係する能力を持っている場合

その力を使い、俺は今度こそ……今度こそ元の世界に戻る！

さて、目標や目的は決まった

だがロケット団のポケモンをどうやって奪うかだが……難しいな。

外から奪うとなると全面戦争になりかねない

団員数はかなり居るらしいし、1人で突破するのは不可能だろう

だからといって内側から……団員にでもなつて奪うのも考えられるが

そうなると自由を失い、指名手配とかされる可能性も有る。

あー……厄介な問題だな

仕方無い、敵対しない程度に動き回るか

正体を知られないようにも動かないとならないし

本当に困るし、面倒な事だ。

場合に寄っては変装して潜ればいいかな？

幸か不幸か、船の中で調べた時に発見できた

無駄に大量に存在する様々な組織の変装道具
何故こんな物が入っているんだろうか？

俺が道具に思える物は大抵入っているんだろうが
どうせだったら全ポケモンも入っていたら楽だったのに……

さすがに生物は基本的に入っていないらしい、例外は有るだろうが。

自転車も入っていたから移動はまだ楽だな

あまり機械の類は普及していないらしいし

一応車とかは有るが、使用者はやはり少なそうだ

絶対数が少ないから当然なんだろうけどな。

色々調べたんだが、この世界は地方や町に依ってかなり科学力の
差が大きいらしい

とある町では機械の殆ど無い自然だらけの町、海に浮かんでいる町
逆にデパートまで有る町、大企業のビルまで有る町

……いや、もう少し統一しないか？

技術を他の町に送るとか、そういう事ぐらいしたらどうなんだ？

まあ、この世界の事情なんてどうでもいい

俺が不便しないのなら興味も無い

不便になってもどうにかするしか無いんだけどな。

それにしても嫌だなあ……やっぱり旅とかしないと駄目だろうか？

俺はこういう疲れる事は嫌いなんだけど……疲れるし、面倒だし
でも必要な事だからしないという選択肢は無いに等しい

1箇所留まっただけでも何もできないからな、情報収集は必須だ。

順番に色々な場所に向かうか

地形を考えて……でも洞窟とか森とかは歩きたくないな

海路も、ボートの件が有ったからあまり通りたくない。

となるとグレンタウン、マサラタウン、トキワシティ、ニビシティは行かない事になる

だがジムバッチは一応手に入れておきたい

あれが有るだけで全体的に有利になる事は多い

なにせ、実力が高いと思われる事になるんだからな

厄介事を運んでくる奴もジムバッチを持っておけば少しは減るだろうし。

さて、ジムの実力は……さすがに大きすぎる差は無いか

それでも少しは差が有るらしい

そしてこのカントー地方で弱い方なのは……ニビジムやハナダジム辺りかな？

となると態々オツキミ山を通る必要が出てくる

だからといってセキチクシティからグレンタウンを通るのも面倒だ

それに各ジムにはそれぞれエキスパートタイプが存在するのも問題だ

俺の手持ちはギャロップとケーシィ……炎とエスパークタイプ

どちらもその2つのジムを相手にするには少々問題か。

何か自分で捕まえるか、強引な手段を使っても勝ちを狙うか

それとも……留守にしているジムから奪ってくるか

不可能じゃないが、ジムリーダーに会う事があり、見られたら困るもし見覚えがないのにジムバッチを持っているとか言われたら危険だ。

仕方無い、気は進まないが正式に手に入れるか

さて……先ずはニビジムに行くか

ギャロップを出し、PCの地図画面を見せる。

「いいかギャロップ

今俺達が居るのはこのクチバシティだ

これからハナダシティに向かう、場所は分かるか？」

少し悩む姿を見せながらも頷く

行けるのなら気にする事じゃないな

さて、さっさと行くか！

ポケモンセンターから出て、ギャロップに跨る

俺が乗った事を確認したギャロップは走り出す

さあ、この世界ではどんな事が有るのか……面倒事は嫌だが楽しみだ！

0話【VS????】（後書き）

何故瑞貴はこんな事に？

作者の悪意となるのでしょうか？

女の子って誰？

予想はできるでしょうが秘密です

相当先にならないと再登場しないでしょうが……

身長が縮んでいるの？

どうやら若返ったようです

なお、実年齢は30歳を超えています

現在の見た目は12歳から13歳ぐらいのイメージで。

えーち湖って？

エイチ湖です

つまりシンオウ地方が始まりの地です。

ユクシーがポケモンの知識を持っているかな？

……まあ、他に知識チートをする手段が無かったので
元の世界の記憶が薄れている状態なのでこれしかありませんでした。

ポケットに何でも入っているって……反則だろ！

それが作者の作品です

道具チート、でも貧弱。

0話から人質なんて最低！

それが堅守瑞貴という人間です。

どうしてギャロップ、マスキッパ、ケーシーなの？

深い意味はありません

が、ギャロップだけは理由があります

まあそれも予想できるでしょうがスルー。

相変わらず色々としているなあ……

それが瑞貴です。

でも、相変わらず自分から巻き込まれる行動をするんだね？

……話が成り立たないのでスルーしてください。

この先どうなるの？

お楽しみ。

そういえば……今っていつなの？

原作漫画1巻前です。

ツイッター……最近してないなあ

http://twitter.com/#!/ain_kuria

まあ気にしませんけど。

1話【VSスターミー】（前書き）

凄まじく遅くなりました、ごめんなさい

ポケモンしてました、ゲームの……とにかくしたくなったので止まらなくなりました

……DPPtですけどね、BWはなんとなくする気になれなかった
ので。

感想とかも放置していました、それもごめんなさい

どうしても気分が乗らなかったのだからこちらを放置していました
この後、全ての感想に返事をします。

なお、ポケモンの技を“ ”で囲っています

漢字を使ったかったのですがややこしくなるので囲い、ひらがな力
タカナを使用しました

しかし思考内では漢字を使用します

思考内でも“ ”にすると……さすがに多くて読み辛くなると思った
ので。

えー……今回も相変わらず主人公が屑です

こちらに残酷描写注意をするべきでしょうか？

まだあまりそういうシーンは無いですが。

なお、瑞貴の名前ですが

こちらの世界に合わせ、ミズキと表記します

読み辛くなるかもしれませんが、ご了承ください。

1話【VSスターミ】

視点 ミズキ

夜中、ハナダシティに到着したんだが……黒い服の男達が居るな
しかも胸元にはRの文字、つまりロケット団か
情報に出ていたロケット団の格好と一致する。

……いきなり会うものだろうか？

これは何か？ 俺に関われというお告げだろうか？
お断りだから無視するんだがな。

しかし、気になるのは何かから逃げるように走っている事が
追っ手を気にしているように見える
何かしら悪事を働いて、追われているのかな？

まあ、あいつらが何をしようと俺には関係の無い話だ
そう思い、適当な宿を見つけて入ろうとした時に少女の声が聞こえた
必至に何かを探しているような感じだな、当然ながら無視するんだ
が。

が、ふと眼が合った
そして突っかかってくるような態度で、怒りの顔で俺の方に……来る
なよ！

「ちょっと貴方、ここら辺で見かけない顔ね」

「……突然失礼な奴だな、俺は今日、偶然この町に来たんだ

知らない奴から突然怒りを向けられる理由は無いが？」

俺の態度が相当頭にきたらしく、顔を真っ赤にして怒りの表情だ
腰のボールを構えようと……スーパーボール？

確かジムリーダー達はポケモン協会からスーパーボールを無料で配
布されていたな

しかも一般的にあまり出回っていないとか……となるとこいつ、ジ
ムリーダーか？

「スタちゃん！」

紫色の身体をした、星形を2枚重ねてずらしたような形し、更に中
央に宝石が埋め込まれているポケモン

スタ……スターミーかな？ えーと、確か水とエスパータイプだっ
たか

ギャロップもケーシイも、相性は悪い。

「バブルこうせん」！」

「ケーシイ、“サイコウェーブ”で邪魔な泡を退ける」

すぐさまケーシイを出し、技を指示する

技の目の前に出したので己の身を守る為にも、ケーシイは俺の指示
を聞くしかない

案の定、ケーシイは俺の指示通りに泡を退ける

少しだけ冷や汗のようなものを出しているのは多分気のせいじゃな
いだろう。

「“でんじは”だケーシイ

そして動きを鈍らせたなら“かげぶんしん”」

スターミーの動きを麻痺させ、影分身を作り出して攪乱
トレーナーも突然の出来事に驚いて硬直か……所詮はジムリーダー
でも子供か

おつと、俺も実年齢はともかく見た目は子供だったな、中学生ぐらい
だろうが。

「影分身達と共に時間差で“メガトンパンチ”」

影分身は本体と違う動きができるらしいからな
動きを少しずつずらし、回避をさせないようにする。

「スタちゃん、飛んで！」

……おい、さすがに飛べるのは卑怯だろ
まあエスパertypeだからいいのか？
そう考えたら大して卑怯じゃないか、ケーシイも飛べるし。

「ケーシイ、“サイコキネシス”で引き寄ろ」

「クツ、“ロケットずつき”よ！」

へえ、さすがジムリーダーとでも言うべきか？
どうなるか察し、すぐにそれを利用するように動いたか
だが甘い、俺は更にその上に行く！

「受け止めるケーシイ」

力の弱いケーシイがスターミーの攻撃を受け止めるのは辛いだろう
だが、その痛みをキツチリと返してやりな。

「“カウンター”だ！」

受けた攻撃を倍返しにする技

ケーシイはスターミーの宝石を殴り、スターミーを倒したが、俺はこの程度で終わらせる人間じゃない。

「スタちゃん……っ！」「“じごくぐるま”」

悲鳴を上げるような叫び声と同時に、俺はケーシイに攻撃を指示したしかしケーシイは弱っている相手への攻撃を躊躇い、行動が一瞬遅れてしまう

その隙にジムリーダーはスターミーをボールに戻してしまった。

チツ、役立たずめ

やはり奪った奴は俺の指示通りに動かないか
最初から育てれば上手く動いてくれるかな？
それは追々試していくか。

「貴方……今、スタちゃんを殺そうとしたわね！」

「さてな……俺は倒し切れていなかった場合を考えたただけだぞ？
確かスターミーは回復技である“じこさいせい”を使用できたはず
となると最後まで潰さなければ反撃されていたかもしれないからな
俺は用心深いんだよ、理解できたかな？」

「屁理屈を！」

私のギャラちゃんを返しなさい！」

ギャラちゃん？

名前から考えて……ギャラドスか？

「勘違いしているようだがな

俺は別にお前のポケモンになんて興味は無いんだが？」

「……へ？」

怪しいからって決めつけるなよ

奪われたっばいが、八つ当たりはどうなんだ？

俺は平気でするけど。

「疑わしいならモンスターボールを全て開こうか？

といっても、手持ちはケーシィとギャロップしか居ないが」

そう言ってボールを見せ、ギャロップも出す

啞然とし、言葉を失うジムリーダー。

だが、俺はもうこの女に興味は無い

面倒事はお断りだ、自分から突っ込んだならともかく、他要員の面倒事は絶対に嫌だ

つまり、さっさと宿で寝させてくれ。

「ご、ごめんなさい！

てつきり私のギャラドスを奪った奴かと思って……」

「で、見かけない俺を怪しく思っただけで襲ってきたと

そのスーパーボール、ジムリーダーだろ？

ジムリーダー様は素晴らしい考えをお持ちなのですねえ？

怪しい人間は即犯人扱い、きっと犯罪者は増えるでしょうねえ？

だってジムリーダー様が勝手に他の人間を犯人扱いしてくれるんで

すから」

「う……う、ごめんなさい」

皮肉に少し涙目になりながらも謝るジムリーダーで、いい加減に俺は宿に入りたいんだけど？

「あの、お詫びと言っては何だけど、私の家に泊まらない？家は広いから貴方1人ぐらい泊めても問題無いわよ食事を出すし、どうかしら？」

普通、微妙とはいえ年頃の異性を自分の家に泊めるか？詫びにしても、それはどうかと思うぞ？

ふむ……腹巻きみたいな物だけで胸元を隠し、更に短パンスニーカーね

活発そうな格好をして男勝りっぽいのが、サイドテールをしてる所は女の子か

少なくとも色気は感じ無いな、興味も無いんだが異性として見る事は不可能だ。

「お断りだね、突然襲ってきた相手の家に泊まりたいだなんて思わない

食事にそこまで拘りも無いし、興味も無い

そんな事より俺はさっさと宿で休みたいんだよ」

実力も把握できたしな

明日はさっさとジム戦を済ませてニビシティに向かう

不意打ち気味とはいえ、ケーシイだけでスターミーを潰せたんだ勝つのは簡単とは思えないが、不可能ではないと予想できる。

「それは確かに……そうだけど

だからってそれは酷くないかしら？

私は純粹にお詫びのつもりで……」

「だから、信用できないって言ってるだろう？

そもそも明日には敵同士、馴れ合いをするつもりは無い」

「敵同士？

……貴方、私の正体を？」

「知ってる、少し情報を探したら使用ポケモンとボールで予想はできる

ハナダシティ、ハナダジムのジムリーダー、カスミ

使用ポケモンは水タイプ、そして通称お転婆人魚のお嬢様……だったかな？」

彼女がカスミだと気付いたのはスターミーを出して来た時だ

やはりどこでも情報が命、ジムリーダーに挑戦するんだからな

当然だが、ジムリーダーの情報は全て手に入れている。

カントー地方のジムリーダー、水タイプのスターミー、更にここはハナダシティ

となると目の前に居るジムリーダーはカスミしか居ないという訳だ。

「明日、ジム戦を申し込ませてもらう

使用ポケモンが攫われたのか、更に気落ちしているかはどうでもいい受けてもらうぞ、ジム戦をな」

「……1つだけ質問させてもらってもいいかしら？」

無言で頷く

予想はできているが、素直に答えるかは迷うな。

「私のスタちゃんはほぼ瀕死状態だった

それを分かっている、どうして“じごくぐるま”なんて殺すような技をあのケーシーにさせようとしたの？

さっきの答えじゃ納得できないわ！」

やはりな……正直に言うと、どうでもいいんだがね
どう答えるか……素直に答えてやる必要も無いな。

「悪いが話した通りだ

死に損ないに手痛いしつぺ返しを受けた事があるのでな

殺すつもりは無かったが、完全に潰す気だった

俺は妥協なんてしない、危険な芽は危険が訪れる前に先に潰しておく
それ以上の理由はもう無い、後は同じ事しか言えん」

嘘だけだな

本当は半分不運に任せて殺そうとした。

ポケモンを奪われてショックだったんだろう？

なら出して来たスターミーの実力はおそらく上位のはず

消しておけば再戦時に楽になるだろう

ま、印象は激悪になるのはどうでもいいしな。

それに、怒り狂ってくれたら再戦の時に自滅してくれる可能性も出てくる

怒っている者は普段より高い実力を出す、その代わり頭が悪くなる
単純な動作で来る可能性が高いんだ、戦いが楽になる

関係の悪化程度で勝率が上昇する、安い代償だな。

「……そう、わかったわ
明日のジム戦、楽しみにしておく」

そう言っ去って行くカスミ

ポケモンを殺されそうになった怒りと犯人と決めつけて襲った罪悪感
明日の試合、ここまでされて私情を挟まないのは先ず不可能
となると……くく、俺も楽しみだよ。

なんだかんだで宿に泊まり、一夜を過ごす

さてと、既にケーシイの手の内を教えてしまったが……何も問題は
無いな

戦法は1つじゃない、戦闘手段なんていくらでも考えられる。

………

………

………

翌日、ジムの受付でジム戦を申し込む
特に何も問題は無く、ジム戦を始められるらしい。

案内された先はジムの奥

広く何も無い、ただの大きな部屋の中央
そこには既に、カスミが待ち受けていた。

「待っていたわ、挑戦者

改めて自己紹介をさせてもらうわ

私はハナダジム、ジムリーダーのカスミよ」

「俺は……そうだな、放浪者のミズキだ」

「放浪者って……」

事実だからな

目的はあるものの、迷子に等しい

放浪者が多分一番合っているんじゃないか？

「まあいいわ、ルールは使用ポケモンは2体

その内1体でも戦闘不能になった時点で試合終了よ

何か質問は？」

「反則とかはあるのか？」

「反則？」

そうね……同時に2体を使用するとか、トレーナーがポケモンを手助けするとか

どう見ても明らかに反則と思われる行為とかよ」

ふーん、抜け道が多そうで困るな

一応正式な試合だし、しないでおくけど

もし野良バトルなら確実に何か仕掛けるな、俺は。

「なら試合開始よ！

いってヒトちゃん！」

出てきたのは黄土色の星形ボディ、中央は黄色の六角形

更に中心には赤い宝石のような物が埋め込まれている

……確かヒトデマンに性別は無かったはずだが、どうやって繁殖しているんだ？

「ギャロップ」

燃える鬣をした炎の馬を出す

さて、相性は悪いが……問題は無いな。

「私がいずタイプの使い手なのは知っていたわよね
それでもほのおポケモンのギャロップを出すなんて……」

「昨日話さなかったか？ 俺はこいつとケーシィしか持っていない
とな

ギャロップ、 “ ころそくいどう ” からあの中央の宝石に向かって “
つのドリル ” だ」

速攻で超威力技、 “ つのドリル ” を使わせる
しかも弱点と思われるあの宝石に向かってだ。

指示通りに従い、攻撃したが…… チッ

“ つのドリル ” を態と宝石に当てなかったな

所詮は金持ちのポケモン、戦闘用に仕立て上げていなかったか
更に即死する可能性の攻撃を仕掛けるのに戸惑ったな。

やはり自分の手持ちは必須だな

役に立たない雑魚は後々処分するとして

自力で捕まえるのは急務だな。

「っ！ 戻ってヒトちゃん！」

ヒトデマンは戦闘不能寸前に戻された

そして俺の正面からの不意打ちに睨むカスミ

当然、俺は涼しい顔をしているがな。

「あんた……」

「まだ試合中だろ？」

早く次の奴を出したらどうだ？

ジム・リー・ダー・様？」

「つつつ！」

パウちゃん、“とつしん”！」

次に出てきたのは真つ白の身体をした海驢……パウワウだな
そして出てきた直後にすぐさま攻撃か、過激だなあ。

「向かってきた頭を“ふみつけ”てやれ」

パウワウが突撃してきているので頭を踏むように指示
突進の勢いは削られ、ギャロップの足元で暴れるパウワウ……甘いな
俺としては頭蓋を砕く勢いで潰してほしかったが、それは高望みかな？

「パウちゃん、“オーロラビーム”よ！」

「構わず踏み続けるギャロップ」

パウワウの角から光る光線が撃ち出され、ギャロップに直撃する
しかし、苦しみながらも力強く踏みつけるギャロップ
押し勝つか、体力が尽きるかの勝負だが……

「戻れギャロップ」

次、ケーシィよ、出る」

案の定、ケーシィを見たカスミの動きが止まる
さあ、怒りの感情と憎しみを見せる！

「ケーシィ……パウちゃん、“ふぶき”よ！」

馬鹿が、相手が元気な状態で大技を使うとはな！
大技を使う時、それは相手が弱り、躲せない時だ！

「“テレポート”で背後へ
そして“のしかかり”をしろ」

ケーシィはパウワウの吐き出す吹雪から逃げ、背後に回る
そのまま背中に向かって勢いを付け、力強いのしかかった
パウワウは苦しみながらも耐えるものの……

「パウちゃん、“れいとうビーム”よ！」

「ケーシィ、そのまま“じごくぐるま”だ」

パウワウの放った氷結の光線はケーシィがパウワウを掴んだ瞬間、
射線から外れてしまう

間一髪、もう少し指示が遅れていたら直撃していたな
擦ったものの、躲したのならこちらのものだ！

ケーシィはパウワウを掴み、縦回転に地面を転がり、パウワウの眼
を回す

壁の近くまで転がると、ケーシィはパウワウを壁に叩きつけるよう
に投げる

案の定、勢いが強くて壁に叩きつけられ……そうになる直前にカスミがパウワウをボールに戻した。

「……おい、それはトレーナーが手を貸したことになるのか？」

「そうね、確かに手を貸した事になるかもしれないけど殺されそうになっている自分のポケモンを守ろうとしたのよ例え反則でも……加減を知らない馬鹿に私のポケモンを殺されるよりはマシよ！」

既に泣いている顔で、俺に向かってバッチを投げつける
あ、涙目になって泣きそうな顔をしているな……鬱陶しい。

「バッチはあげるからさっさと出て行つて！
そしてもう二度と私の前に現れないで！
私はあんたなんか会いたく……ひくつ、会いたくないのよお……
うわーん！」

大泣きか、面倒だしさっさと帰るか
そうと決めたら投げられたバッチを拾い、ジムから出て行く
ジム戦の内容を見ていたのか、監視していたのか
ジムから出て行った後、ジムの方からメイドが俺を睨んでいた……
当然無視したがな。

さて、これがブルーバッチか……水滴みたいな形をしているな
単純過ぎないか？ もしジムリーダーが代替わりして、水タイプ以外の専門家だった場合
例えば炎や氷、飛行やドラゴンタイプでもこの水滴型のブルーバッチを渡すのか？

……ポケモン協会よ、必ずバッチに会うトレーナーをジムリーダー

にしるよ？

それはさておき、もうこのハナダシティに用は無い
さっさと出て行ってニビシティに向かおう
問題は山を越える…… オツキミ山を越えなければならぬ事が
面倒だが、山を越えなければ話にならない。

さて、とりあえずポケモンセンターに向かおう
ギャロップとケーシーを回復させて、それから向かおう
あまりダメージは受けていないだろうが、山登りは準備をしてから
行かないとな
もし遭難したりしたら危険だからな……俺が。

まあ、万が一の時はケーシーにレポートさせれば問題無いんだろう
ギャロップで走るより簡単にハナダシティに戻るはずだ
さすがにカスミには会いたくないが、休むぐらいなら会わないはず
だ。

おっと、休む前にギャロップの毛繕いでもしてやるかな
ケーシーは“れいとうビーム”が擦ったつけ？
擦った部分は温めてやって、尻尾も梳いてやるか。

まったく、ポケモンのメンテナンスも大変だ
気を遣わないと言う事を聞かないし、世話も面倒だな
まあ、馬と狐でも飼っていると思えばいいか
炎が出ていたり浮いたりできるが、今までを考えたら馬や狐と大差
無いし。

……

ジム戦後の後は何もしたくなかったからその日は完全に休んだ翌日にオツキミ山に向かう準備を始める
できれば早朝に出たいので、もう1日ハナダシティに泊まりつとさて、準備も終わって時間も丁度良い事だし、そろそろオツキミ山に向かうか。

仮にも山だ、準備は事前に入念にきちんとしておかないとな
帽子、防寒具、ナイフに杖、テント、地図にコンパス、ファーストエイドキット

ライト、ライター、食料と非常食、そして水……さすがに重いな。

ギャロップに持たせるにしても、さすがに重いか？

山登りもさせるんだし、あまり大荷物は止めておくべきだろうか？
ケーシーに持たせるのも1つの手段だが……そう簡単なお話ではないか。

仕方無い、2つに分けてケーシーとギャロップに持たせよう
そして俺は疲れるし面倒だし嫌だが、自分の足で歩くか
不安定な道を馬に走らせると危ないしな。

よし、準備は多分万端だろう
行くか……オツキミ山へ！

で、まずはギャロップとケーシーを出して荷物を持たせて
俺は手ぶらだが、まあ問題無いだろう
こいつらも平気そうだし、さっさと行くか。

暫く山を歩いていたんだが……

何故山登りではなく、俺は洞窟の中を通っているんだ？
山登りじゃなかったのか？ せっかく準備してきたのに……無駄に
なった！

それはさておき、ギャロップの炎を明かりにして進んでいるが
この洞窟、ある程度人間が手を加えているな
なにやら発掘作業をしたような、もしくは何か捜し物をしているの
か。

確か情報では、このオツキミ山では珍しいピツピが生息しているら
しいな
そして月の石……なるほど、そう考えると人間が通路などを造って
も不思議じゃないか
まったく、自然界を汚しやがって……別に俺に被害が無いからどう
でもいいけど。

ん？ 前方に人が……発掘者とかだろうか？
それとも単なる遭難者か、もしくは旅人か……放置決定
俺はそんなものより、早くこの山を下りたい。

向こうもこちらに気付いたらしいが無視……しようとしたんだが腕
を掴まれた
こいつら、もしかして集団？ 黒い服に、胸元に書いてある赤い文
字でのRの文字
どう見てもロケット団だな、どうするか？

「おいお前、何故この洞窟に居る？」

「ニビシティに行く為だよ
早く移動して休みたい、放してくれないか？」

俺を掴むロケット団は周りを見て、他の団員に軽く意見を伺う
黙ったまま目で合図を送り、何やら誰かまで送っているような……
というか、目と目で語れるのか？ お前らは？

少し待つと、他の団員と同じ格好だが、赤いマフラーをした痩せ形
の男が現れた

どう見てもリーダーだな、この集団の
単なる部隊長だったりするかもしれんが。

「貴様、何故この洞窟へ入った」

「……同じ事を訊くなよ、俺はニビシティに行きたいんだ
あんた達に興味は無い、さっさと通らせてくれ」

俺を睨み付けるマフラーの男

その目を俺は興味無く見つめ返す

心底、どうでもいいという態度でな。

「……嘘ではないようだな

お前達、こいつをさっさと洞窟の外へ追い出せ！」

へえ、送ってくれるのか？

それはありがたい、道に迷いたくなかったんだ

出口まで連れて行ってくれるのなら助かるよ。

そんなこんなで、俺はロケット団に送られてオツキミ山を越える事
に成功した

道に迷う事も無く、野生のポケモンも見ただけで済んだ
本当、下手に嘘を言うものじゃないな。

「この3番道路を抜ければニビシティだ」

「そうか、助かったよ

案内どうも」

「我々は貴様に居られては困るだけだ
さっさと行くがいい」

へーへー、変に目を着けられる前にさっさと移動するかな
下っ端も大変だな、マフラー男に命令されて俺も案内だなんて
俺は助かったからどうでもいいけど。

山を下り、ニビシティに到着する……って、騒がしいな
壁を見てみると、そこには手配書

どんな奴かと思ったらポケモン、ピカチュウか……どうでもいいな。

俺は騒ぎも手配も完全に無視し、宿に泊まる事にした
さすがに山道だ、少し疲れた……
宿で休もうとした時、ふとチラシが目に入る。

どれどれ……挑戦者歓迎？

ニビシティジムリーダータケシが受けて立つ……か
ジムリーダーも暇なんだな。

ルールは1対1、ニビジムのトレーナーに5勝する事が条件
その間、ポケモンの回復は禁止
何匹連れて行っても構わない……か。

となると6匹手持ちになれば各1戦で済むんだな

日程は明後日……手持ち6体は面倒だが、1匹ぐらい捕まえてみるかな

近くにはトキワの森、鍛えるにも捕まえるにも丁度良い。

登山道具は全て宿に置き、トキワの森へ向かう準備をする

疲れているが、少々時間が無いので急ぐ

道具は……毒消しとかの道具は問題無いし、軽い装備で大丈夫かな？
一応コンパスとか、その辺りは持っていくが。

ギャロップを出し、跨ってトキワの森へ向かう

さてさて、何が出てくる事やら……ん？

紫色の毛玉……アレはコンパンか。

ふふふ、ポケットの道具を漁っていた時に見つけたんだよな……ポケモン図鑑

表に出ている数が凄まじく限られている道具だ、人前では絶対に見せられない

だが、こういう時なら使用できる。

更に俺にはユクシーの知識が有る

容姿と名前を知れば、そいつに関する事はある程度理解可能だ。

コンパンの進化形はモルフォンか……毒蛾ポケモンね

毒蛾か、いいな……こいつは欲しい、捕まえるか。

「ギャロップ、殺さない程度に燃やせ」

加減したギャロップの“ほのおのうず”でコンパンが燃やされる
こちらに気付いておらず、突然の炎に混乱するコンパン
しかし、そんな隙を見逃す俺ではない。

慌てているコンパンに向かって適当にボールを投げる
コンパンに直撃し、ボールに収まる……こんなに簡単に捕まえられ
るものなのか？

まあ、手に入っただから仕方無い。

さて、他に何か無いかなつと……ん？

この辺り、少し荒れてる？ 大型の何かが居るのか？
少し危険かもしれんが、探してみるか。

辺りを見回し、荒れている方向へ進んでみる

何が居るかも思えば、茶色の身体をした、怪獣のようなポケモン
あいつは……ガルーラか？

なるほどね、腹に子供を飼っているのか

しかしでかいな……2.2mか、さすがにでかい
ついでに何故か傷付いている……火傷も負っているな。

なんでもいい、傷だらけなら捕まえるのも容易か

ギャロップの攻撃で傷付いているが、それでも構わんか

毒を与えるのは……止めておくか、子供が死んだら捕まえても絶対
に言う事を聞かん

となるとプレゼントしてやるのは決まってくるか。

「コンパン、“ねむりごな”であのガルーラを眠らせろ」

弱りながらも、俺の指示を受けて粉を撒き散らすコンパン
ガルーラは突然の眠気になんとか耐え、逃げだそうとする。

「逃がすなギャロップ、“ほのおのうず”で逃げ場を塞げ」

ガルーラの行き場を塞ぎ、逃げられなくする

その間にコンパンは更に粉を撒き散らす

強烈な熱さを受けながらも、強い睡眠欲から逃げ切れない
暫く耐えるも、ガルーラはその場で倒れ、眠ってしまう。

体力も減ってるし、眠っている

これなら楽に捕まえられるかな？

ボールを投げ、捕獲成功つと

ガルーラにコンパン、ギャロップにケーシィか……こんなものが
下手に捕まえても雑魚ばかり増えるだけかもしれない
育てるならやはり一点集中かな？

ボールからガルーラとコンパンを出し、道具で回復させる
傷薬などを使って回復させる

次は技マシンを使って技を覚えさせないとな。

わざマシンは頭に特別な機械を装着させ、強引に技を覚えさせる道具
ケーシィの多種多様な技も、こいつを使用して覚えさせた

まあ、俺は馬鹿みたいな数の道具を持っているし、覚えさせるだけ
覚えさせても損は無い。

さて、適当な奴を潰して鍛えさせておくか

俺好みの性格にして、動きも理解できるように説明しておくか
俺の考えに同調する、隷属者のような動きに改造しないとな。

ジム戦は明後日……それまで躑けるか

しかし、ポケモンの躑け方ってどうするんだ？

ガルーラはカンガルーみたいな見た目だし

コンパンは蛾の幼体だよな？

カンガルーは草食だし、木の実とかでいいかな？

子供にはミルクとかを飲ませるのがいいと思うんだが、ガルーラ本人に訊くか

頷いたり簡単な返事ぐらいはできるだろ。

コンパンは栄養価の高い草とか……キャベツとか食うのかな？

こっちもコンパンに訊くべきだな

もし嫌がるのならギャロップにでも食わせて別の物を考えよう。

って、食い物じゃなくて躰け方だった

うーん……まあ、世話をしていたらその内言う事を聞くようになるだろ

とりあえず、ジム戦だけでも言う事を聞くようにしないと。

そうだな、最初は美味しいものでも食わせるか

次はあまり美味くないもの、言う事を聞けば美味しいものを食わせる金は掛かりそうだが、それぐらいは余裕で払えるぐらいの金は持っている

最終的には、少しずつ質を下げて舌を慣らしていけばいいしな。

戦闘訓練や躰けは明日からにしよう

今日は疲れた、宿に帰ってさっさと寝よう

あー……でも、殺す前提の戦いは基本的に止めておこう
ジム戦でしたらバッチを貰えなくなるかもしれないし。

1話【VSスターミー】（後書き）

最初のロケット団って何？

漫画1巻6話のギャラドスが攫われた瞬間です

この主人公は助けるなんて行動は絶対にしませんかね。

ケーシイの技が……

最後にも書いていますが、技マシンを大量使用しています
道具の大量所持は技マシンも含まれています

ゲーム表記をするとすればわざマシン01×99という感じで……

ミズキはチートコードでも使用しているんでしょうかね？

ミズキの行動や思考が屑過ぎる！

感想で違和感を感じると言う人も居ますが、各世界でミズキも段々と擦れてきています

なのでどうしても性格が酷くなってしまうているのです

彼も壊れていつているのでしょうか……まだ書いていませんが。

いつケーシイを鍛えたり、わざマシンを使用したりしたの？

ハナダへの移動中です

野生のポケモンも出てきていますが、そこまで描写すると凄まじく長くなるので省略。

ジム戦のルールはどうしてそんなルールなの？

漫画13巻、155話で説明していますが

ポケモンリーグ本戦では手持ちの内、1体でも戦闘不能になった瞬間敗北です

あの世界のルールはイマイチ分からないので、ジム戦は全てそれです

できればちゃんと決めて欲しかったなあ……

山登りの道具が本格的過ぎる！

用心深いのがミズキですから

山登りも初めてですからね、少なくともこの世界では。

赤いマフラーをした痩せ形の男って？

ロケット団三幹部のキョウです

オツキミ山で月の石を探す任務でした。

どうしてコンパンを？

お楽しみ。

あのガルーラって……

漫画1巻3話で登場したガルーラです。

コンパンもガルーラもトキワの森に出ないよね？

あの漫画世界ではモルフォンとかも出てくるので気にしない。

マスターボールとか持つてるのにどうして態々バトルしてポケモンを捕まえたの？

捕まえようとしているポケモンの能力を軽く見極める為です
雑魚は不要という人間なので。

……ミズキ、地味に真面目に世話をしてるんだね
地味にですがね

まあ、ミズキは身内に甘いので……多分。

2話【VSサイドン】（前書き）

どうも、ここ数ヶ月は遅い更新となっています
こちらはどちらにせよスローペースですが。

まさかジム戦で1話を思いっきり使うとは思っていませんでした
それにしても、何回読み返しても1章はマシですね
4章に比べたら本当に……ロケット団のイメージからでしょうか？
主にアニメの……いえ、なんでもありません。

今話にはとあるゲストキャラが登場します
誰かは秘密……ただ、知っている人は知っています。

2話【VSサイドン】

視点 ミズキ

さて、ニビジムに挑戦する時間だな
岩の使い手、鉄より硬い岩石の男、ニビシティジムリーダーのタケシ
5勝してやっとタケシへの挑戦権を得られる……か。

俺は……Dブロックか

さて、さつさと勝って先に進もう

こんな小さな場所で躓いていけないしな。

リング上に居るのは男と、イシツブテか

馬鹿か？ 最初から自分の使用ポケモンを晒すとはな
態々出している意味も無いのに、勿体ない……

俺は今回使用する、コンパンを出す

しかし、見た目はどう見ても弱そうな虫ポケモン
相手がこちらを見て笑っているのが見える。

そして鳴ったゴング

さつさと終わらせるかな。

「コンパン、“かなしばり”」

イシツブテの動きを封じる

これでもうあいつは動けない。

「い、イシツブテ!？」

「メガドレイン」

岩タイプに効果的な草タイプの技

体力を吸い尽くされ、イシツブテは動けなくなった。

連戦でも、体力を奪えるコンパンの“メガドレイン”なら最後まで
続くな

これで何も心配は要らない、さっさと終わらせよう。

第2戦、相手はサイホーンね

別に怖い相手じゃない、コンパンでさっさと終わらせようか。

「コンパン、“かなしばり”」

「サイホーン!“とっしん”だ!」

サイホーンが“とっしん”の指示を受け、向かって来るも“かなしばり”で先に動きを封じる
後は軽く料理するだけと
見るコンパン、目の前に良い餌があるぞ?

「メガドレイン」

体力を奪い尽くし、気絶するサイホーン

啞然とするトレーナーを無視し、次の試合に向かう

……いくらなんでも弱すぎる。

その次の試合はまだマシだった

コンパンの“かなしばり”を警戒し、サンドが“スピードスター”を使ってきた

が、コンパンの“ねんりき”でねじ曲げてサンドにプレゼント
ついでに“メガドレイン”で体力を奪って終わり。

4試合目、相手はデイグダだった

“ひっかく”の連打で鬱陶しかったが、“どくのこな”で毒状態に
してやった

体力が減ったことで動きが鈍ったところに、お馴染み“メガドレイ
ン”で体力を奪う

なお、受けたダメージは全快したようだ。

予選最後の5試合目はゴローン、イシツブテの進化形か

開始直後の“たいあたり”に直撃するものの、なんとか耐えた
タケシ戦はコンパンを使う予定は無いし、少し暴れるかな？

「ゴローン、もう1回“たいあたり”だ！」

「“リフレクター”だコンパン」

光る壁を作り出し、壁とする

ゴローンは壁にぶつかり、弾き返される
そんな大きな隙を見せたら……危険だぞ？

「コンパン、“サイキネシス”」

目から超能力のような青い光を放ち、ゴローンを捕らえる
そのまま宙へ浮かせ……

「“どくどく”」

口から毒を吐き出し、ゴローンは猛毒を浴びる
動けない状態で猛毒状態、放置したら死ぬぞ？

それを理解したトレーナーはすぐさまゴローンを戻す
どうやら降参らしい、当然だな

放置したら本当に死ぬし、すぐに回復させに行くだろう。

タケシへの挑戦権を得られたのは俺を含めて4人

赤い帽子の少年、使用ポケモンはニョロゾとフシギダネ

しかし、何故か体力が減っているのか回復していないのか、そろそろ限界かな？

となると切り札の1体でタケシを突破するつもりか。

2人目は茶髪のとげとげ頭……どうやって髪を立ててるんだ？
使っていたのはリザードにゴルダック、ピジョットか

あいつは実力者だな、俺の手持ちでは精々互角か……勝てないだろう
やはり面倒だが手持ちを育てるしか無いか。

3人目は着物の女、黒髪がやたら長い

手持ちはストライクとスパークだが、確実に隠し球があるな

戦法はスピードとパワーを重視した押せ押せタイプ……赤帽子の少年に近いか？

性格も近いような遠いような、微妙なところだ。

そして最後は俺

コンパンのみ使用、これでよく勝ち進めたものだ

“メガドレイン”を使えるから当然とも言えるがな。

そういえばフシギダネも“メガドレイン”を使えるはずだが……使

えないのか？

使えるのならかなり楽になって有利になっただろうにな

“やどりぎのたね”を使ってもよかったと思うんだが、使わなかったな

ま、1撃でも受けたら危険だろうし、悠長にジワジワ奪うなんて待つてられないか。

さて、観察させてもらおうかな？

俺がタケシと戦うのは最後だし。

試合順はトゲトゲ頭、赤帽子、女、俺の順番だ
どの順番だろうが関係無い、俺が勝つだけの話
順番に意味を持たせる必要は無い。

1 試合目の棘頭

使用したのはゴリキー……ゴルダックでも勝てると思うが、ダメージを受けているからかな？

格闘でも岩とは相性が良いからな、それで使うのはゴリキーなんだろう。

対するタケシの使用ポケモンはイワーク……体長が8・8mとかなりでかい

体長1・5mのゴリキーとの差は大人と子供以前の問題だ
あの巨体で締め付けられたらさぞ辛いだろうな。

「ゴリキー、“きあいだめ”！」

「イワーク、“いわおとし”だ！」

「“からてチョップ”で打ち落とせ！」

ゴリキーは“きあいだめ”で集中力と高める
イワークの放つ岩をその腕で落としていく……やはり強いな、あの
棘。

焦れてきたのか疲れてきたのか、イワークの放つ岩数が減ってきた
そしてゴリキーは段々とイワークに近づいている
もう少しでゴリキーの攻撃範囲に入ると思われる場所で……

「けたぐり」！

「いかり」！

“がまん”だ！

“けたぐり”が決まるものの、“がまん”で耐える

そしてその前に使っていた“いかり”で攻撃力を上げるか
だがダメージの大きい格闘技を受けて、反撃できる体力が残るかな？

「……む？」

ん？ 棘も気付いたようだが、思ったよりダメージが小さい？

イワークが使えるような技といえば……なるほど、“かたくなる”か
それでダメージを減少させたんだな。

更に別の副産物も得たらしい

“けたぐり”を放ったゴリキーの足は怪我をし、血を流している
棘は舌打ちをするも、冷静さは失っていないらしい。

「これで終わりだ！

“たたきつける”！」

尾を高くから振り下ろし、ゴリキーに直撃……したように見えたしかし、ゴリキーはイワークを殴り飛ばしていたあの状況でそれができるとすれば……“カウンター”かな。

これでイワークは戦闘不能、棘の勝利だな

イワークはボールに戻される、体力はまだありそうだから次もイワークかな？

そしてタケシは棘にバッチを渡す……あの岩みたいな形をしているのがグレーバッチか？

ブルーバッチの時も思ったが、あの見た目と名前はとうにかならないのか？

戦闘不能になったものの、まだ軽傷だったのかすぐに出てきたタケシとイワーク

暫くし、帽子がピカチュウを押しながら出てきた？

まさかあのピカチュウ、トレーナーの言う事を聞かないのか？

試合開始のゴングが鳴ったが、ピカチュウはそっぽを向いている。

まさかジム戦に言う事を聞かない奴を出すとはな

もしかして手持ちはフシギダネ、ニョロゾ、ピカチュウしかないのか？

なら今までの2匹は回復していなさそうだから無理だし、仕方無いか。

ピカチュウはイワークの吐き出した岩をチョロチョロと避けるも、1回直撃する

直撃した岩にピカチュウは怒るが、その怒りは帽子へと……嫌われているのか？

駄目だなあ、嫌われていても言う事を聞かせるように躑けないと俺はちゃんと躑けたからどいつもこいつも言う事を聞くぞ？

やる気の感じさせられないピカチュウに怒ったらしい
タケシのイワークが体を蜷局に巻き……

「トドメだ！ “ロケットずつき”！」

イワークの速度はなかなか速い
その攻撃が背中を向けているピカチュウに直撃しそうになるが
割り込んだ帽子がピカチュウを抱えて逃げ出す。

……危ない奴だな

もし少しでも遅れたらイワークの巨体に叩き潰されて死んでいたか
もしれないんだぞ？
何も考えていない馬鹿か、それとも身体能力に自信が有ったか……
前者かな？

馬鹿の証拠に、ピカチュウと暢気に笑顔で話している
何を言ったのか、ピカチュウがやる気を出したが……遅い
既にイワークの“ロケットずつき”がピカチュウに向かって放たれている。

しかしピカチュウは慌てず、飛び上がって回避
自らの力である電気を尾に集中させ、強烈な“たたきつける”を頭
部に直撃させる

本来なら電気技は地面タイプでもあるイワークに効果は無いが、何
事にも例外は有るらしい。

どうやら電気により威力を上げられた一撃は、威力が一点集中せず

に拡散されたようだ

電気特性からしてそれは当然なんだが……実際に起こると恐ろしいものだ

イワークの体となっている岩と岩を繋ぐ為の力を弱めたらしい体の岩がバラバラに弾け飛び、イワークは完全に動けなくなった。

驚愕から膝を着き、啞然とするタケシ

ついでに帽子自身も驚いて動けなくなっているが無視。

帽子はグレーバッチをタケシから受け取り、引っ込む

次は女がタケシと戦うらしいが……何を使うんだ？

ついでに、タケシもあのイワークは使えないだろうし……

女が出したのはマダツボミ、タケシが出したのはゴローニヤ

……待て、ゴローニヤはイシツブテ、ゴローンの最終形態だろうがそれを出すのか？ 別に問題は無いと思うが出すのか？

「ゴローニヤ、“とっしん”！」

女は無言でマダツボミに指示を出さない

何を考えているんだ？

そう思っていたら、マダツボミはゴローニヤの“とっしん”を……流した？

あれは柔よく剛を制するという感じの動きだ
なるほど、あれなら最後に出しても不思議じゃない、よく訓練されている。

しかし、それは普通の相手ならばという前提が付く
よく訓練されているが、相手が悪かったな。

「おもしろいマダツボミだな
だが……ゴローニヤ、“じしん”！」

ゴローニヤの起こした地震でマダツボミの動きが止まる
バランスは崩していないが、さすがに動けないらしい。

「クッ……マダツボミ、“はっぱカッター”よ！」

「“いわおとし”！」

“はっぱカッター”を出すも、岩に阻まれてゴローニヤには届かない
その間にゴローニヤはマダツボミの目の前に居て……

「“だいはくはつ”だ！」

「しまっ！」

あーあ……終わったな
本来なら引き分けになるんだろうが、これはジム戦
勝たなければジムバッチは貰えない、つまり……

「ま、マダツボミ……」

戦闘不能になったマダツボミは立ち上がることができない
よってこれは勝利とは言えず、引き分け
つまりジムバッチを得ることはできないということだ。

それにしても、タケシが使ったのはイワークとゴローニヤか
イワークは棘との試合で大怪我じゃなく、少しの回復でどうにかな

つたから帽子戦でも出たが

帽子にバラバラにされたからゴローニヤを女との試合で出した
だが、そのゴローニヤも自爆技で瀕死状態……俺との試合はどうす
るんだ？

俺の試合、タケシが使おうとしているのは……

「悪いが、今回はこいつを使わせてもらおう

本来ならジム戦用のポケモンじゃないんだが、もういなくてな」

待て、それはそれでどうなんだ？

というか、ジム戦用がたったの2体なのもどうかと思うが
ついでにプライベート用なのか、本気用なのかどっちだ？

「俺のポケモンはこいつだ！

出ろ、サイドン！」

……マジだな、こいつは確実に本気用のポケモンだ

イワークとゴローニヤと比べても、成長差がそれなりに大きい
それはもう、見ただけで分かる程だ。

「ジム戦用のポケモンじゃないからな
手加減はするが、負けても怨むなよ」

お優しいことで……嘗めるなよ？

お遊戯バトルにしか見えないこのジム戦程度に負けるつもりは無い
例外というのをよく見ておくんだな。

「ガルーラ、お前の出番だ」

お互いに似たような体格や体をしている
さて……できれば奥の手は使いたく無いんだが
ジム戦用のポケモンならともかく、本気用では少々心許ない
負けるとは思わないが、勝てる確証も無い。

なお、観客席から驚きの声が2種類聞こえたが無視
何故驚いたのかまったく分からん。

「にらみつける”んだ」

「ならばこっちも“にらみつける”だ！」

防御を下げる技なんだが……チツ

牽制に使う予定だったんだが、効果は薄いか

やはりある程度場数は踏んでいると思った方がいい。

「サイドン、“とっしん”！」

馬鹿め、そんな単純な攻撃を通すはずが無いだろう！

「バブルこうせん”」

大量の泡を当てられ、怯みながらもこちらに向かって来るサイドン
しかし、ダメージは大きいのか意地でもという感じに目を閉じなが
ら来る

それでは狙ってくれと言っているようなものだぞ？

「カウンター”」

向かってきたサイドンに向かって拳を突き出すガルーラ

当然ながらその拳はサイドンに直撃し、突撃してきたサイドンの動きが止まる。

「のしかかる」んだサイドン！」

む、強引にガルーラを押し潰しにきたか

しかもサイドンの方がガルーラより小さいので頭の下に体を潜り込ませている

これでは口から出す“バブルこうせん”を直撃させることができない。

こうなったら仕方無い、あまり使いたくなかった奥の手を使おう
ご丁寧に、両腕も押さえつけられ、更に足も動かせない状態にされているからな

本当に最後の手段だったのに、随分早く使うことになってしまった
……残念だ。

視点 タケシ

予想外の強敵、確か名前はミズキだったか？

奴の使うガルーラはあまり育てられていないようだが、強い

元のスペックが高く、更にトレーナーが濃い訓練を施したらしいな。

使わせている技も多才、だがやはり未熟！

手加減はしているが、このままサイドンに潰されたままでは終わるぞ？

しかし、頭の下に体を入れ、更に両手両足を封じている状況
この状態で俺のサイドンを倒す手段は無い
暫くすれば諦めてガルーラを戻すだろうな。

「ガルーラ、“みずでっぽう”」

何を馬鹿なことを！

ガルーラが“みずでっぽう”を出す場所は口！
どう足掻いてもサイドンに当てることは不可能！

しかし、何故か腹部から水が出てきただ！？

どうやってあんな場所から！
クツ、動揺している場合じゃない！

「そのまま“つのでつく”んだサイドン！」

「“はかいこうせん”」

再び腹部から発射される攻撃……いったい何が起こっている！
俺が混乱している間にサイドンは吹き飛ばされ、気絶していた
ガルーラの方を見ると、腹の袋に入っていた子供が大口を開け
て……まさか！

「お前、ガルーラの子供に技を使わせたのか！？」

「正解

悪いがこの勝負、俺の勝ちだな？

まさか、手加減していたなんて言い訳はしないだろう？
どちらにせよ、負けは負けなんだからな」

こいつ……いや、怒るのは筋違いか

手加減したとしても、負けは負けに違い無い
最初から本気を出していたら……これは負け惜しみか。

「確かに俺の負けだな

勝者にはこれ、グレーバッチを進呈しよう」

「……」

不満そうな顔をしながらも受け取る挑戦者
なにが不満なのかは分からないが、キチンと受け取るようだ。

ふう……それにしても、今日は忙しかったな

まさか4人も挑戦者が出るとは思わなかったし、手持ちのダメージ
も大きい

更に問題なのはポケモンセンターが昨晚、何者かに襲われたことだ
回復マシンは一応ジム内にもあるが……いつ復旧するか。

誰が襲ったかは知らないが、犯人は必ず突き止めてやる

……しかし、今はポケモンを回復させるか

挑戦者達のポケモンも、ポケモンセンターが使えないからサービス
で回復させようかな？

視点 ミズキ

タケシから回復マシンを借り、手持ちを回復させる
しかし、挑発というか嫌味を受けても平然としているとはな

なんともからかい甲斐の無い奴だ、さすが岩石の男
皮肉の意味で言うがな。

「おい！」

うん？ 後ろから大声が聞こえたので振り返ってみる
さつきジム戦をして勝った棘と帽子じゃないか。

「俺に何か用か？」

「お前が使っていたガルーラ……少し見せてもらってもいいか？」

「断る」

「へ？」「……」

何故見せる必要がある、面倒だ

俺の即答に啞然とする帽子、短気なのか苛立ちを見せる棘
それを無視してさつさと歩き出す、目的地はトキワシティだ。

「ちょ、ちょっと待ってくれよ！」

そのガルーラ、知り合いかもしれないんだ！」

「それがどうした

知り合いだろうが何だろうが、お前に構っている時間は無い」

帽子の言葉を切り捨て、さつさと進む

しかし立ち塞がる帽子……鬱陶しいんだが？

「少しぐらいいいだろ？」

「……なら、無理矢理引きづり出してみたらどうだ？」

俺は帽子の前にケーシィを出す

自分の言葉を聞き入れない俺に苛立った帽子はニョロゾを出す
どうやら喧嘩を受けるつもりらしいが……知らんぞ？

「みずでっぽう」！

「レポート」

試合とも言っていない、喧嘩に合図など無い
先手必勝の攻撃も、すぐに躲す。

「でんじは」

背後に移動したケーシィの電気がニョロゾに当たる

麻痺してしまったニョロゾを見て、不利を悟ったのかすぐさまフシ
ギダネに交代させる

しかし、その考えは甘い！

「つるのムチ」！

「出るギャロップ、ほのおのうず」

ケーシィは“レポート”で回避、“トライアタック”

ケーシィを戻さずにギャロップを出す

蔓の攻撃は回避され、炎によって動きを封じられる
更に背後からの攻撃が直撃する、戦闘不能だな。

「んな……2匹同時なんて反則だぞ！」

「喧嘩に反則も糞もあるか

試合とも言わず、勝負とも言っていない

バトル」試合だなんて公式は捨てた方がいいんじゃないか？」

悔しそうにする帽子を見下し、屁理屈ながらも正論を言う

俺は何一つ、間違ったことは言っていないぞ？

「なら、俺が乱入するのも有りってことだな？

ゴルダック、“ハイドロポンプ”だ！」

「奇襲は黙ってするものだぞ？

コンパン、“サイコキネシス”」

「お前の戦い方はタケシとの戦いや予選でお見通しだ！

コンパンに“きりさく”だストライク！」

「“カウンター”から“じごくぐるま”」

ゴルダックの“ハイドロポンプ”をコンパンの“サイコキネシス”
で反らせる

それを読んでいた棘は“サイコキネシス”で動けないコンパンにス
トライクで奇襲をする

しかしその程度は予想済み、ケーシィはコンパンとストライクの間
に入って“カウンター”をする

動きを止められたストライクをそのまま掴み、“じごくぐるま”で
地面に叩きつける。

棘は確かに強い、だがそれは試合での話だ

所詮は子供、どうせ正義が勝つとか自分は負けないという思い上がりが強い

つまり、動きや戦闘が単純な行動ばかりとなっている。

そんな者を相手に、卑怯騙し討ち反則上等どころか寧ろ万歳の俺が負けるはずが無い

思い上がりではなく、これは事実として負けない

こちらは生身で殺し合いや騙し合いも経験しているんだ、駆け引きで勝つのは当然

喧嘩ならばその辺りが重要になる、試合では効果は薄まるから余計に大きい。

「チツ、試合では手加減していたのか！」

「手加減なんてしていない

喧嘩と試合、本気が出せるのはどっちだと思う？」

俺の言葉に納得したのか、棘の苛立ちは更に上がる

睨んでくるも、その程度の睨みで俺が怯むはずも無い

濃すぎる経験をしてきたんだ、そよ風どころか無風に近い。

「ピジョット！ ケーシィに“つばさでうつ”！

リザード！ コンパンに“かえんほうしゃ”！

ゴリキー！ ギャロップに“からてチョップ”！」

なるほど、遠距離からではケーシィに躲されやすいから直接攻撃

コンパンはエスパー技の威力が低いから、相性と力技で強引に潰す

馬の形状から、直接戦闘が苦手なギャロップには接近戦

どうやらこの棘、実力が高い上に頭も良いらしい……だが、喧嘩で俺には勝てんよ。

「メガトンキック」、「ソーラービーム」、「ふみつけ」

ピジョットの翼を蹴りで受け止め、リザードの炎は光線で消し飛ばす
ゴリキーの手刀は上部から踏みつぶすことで受け止めさせる
そして通常の勝負ならば拮抗するような場面だが……

「ガルーラ、“ふぶき”で全滅させろ」

これは喧嘩であり、乱闘だ、敵味方なんて考える余裕は無い

ガルーラは俺の意図に気付きながらも、俺の手持ちも含めて全てを

“ふぶき”で攻撃する

が、ケーシイは“レポート”で逃げだし、コンパンは“サイコキ
ネシス”で雪をリザードに向ける

更にギャロップは自分の周りを“ほのおのうず”で囲み、“ふぶき”
を防ぐついでにゴリキーに攻撃。

完成したのは氷でできたピジョットの氷像と大火傷をしたゴリキー
リザードはなんとか直撃前に炎を出したのか、ダメージは薄いらし
い。

「クッ……」

それでも2体は戦闘不能状態

帽子の手持ちは言う事を聞かないピカチュウと麻痺したニョロゾ、
敗北したフシギダネ

棘は凍ったピジョットと火傷を負ったゴリキー、倒されたストラ
イク、疲労しているリザード

無事なのはゴルダックぐらいかな？

「ガルーラはもう見ただろう？
もうこれぐらいにして、さっさと帰りな」

俺はガルーラとケーシィ、コンパンをボールに戻す
そしてギャロップに跨り、移動しようとする。

「待て！ お前の名前は！？
俺はレッドでこいつはグリーンだ！」

名乗る必要は無いんだがな
ま、精々悔しさを感じてもらおうか。

「俺はミズキ、敗北と共にこの名を胸に刻んでおくんだな」

ギャロップを走らせ、棘改め緑棘と帽子改め赤帽子から離れる
あまり改めてないような気がするのはいきつと気のせいじゃない
次の町、トキワシティのジムリーダー……は、無理だな
最強のジムリーダーと言われているらしいし、試合で勝てる自信は
さすがに無い。

となると、海を渡ってグレンタウンにでも行くか
グレンジムならどうなるかな？

視点 グリーン

「行っちゃったな」

「ああ……」

少ししか見ていないが、あのガルーラはおそらくトキワの森で出会ったガルーラ

俺が捕まえようとしていた所をレッドが邪魔をして……それはいい子供が毒を負っていたのを治療して逃がしたんだが、どうやら奴はそれをそのまま捕まえたらしい。

「あのガルーラって、やっぱりそうなのか？」

「そうだ、俺達がトキワの森で出会ったガルーラだ俺達を見て、複雑そうな顔をしていたし十中八九、あのガルーラだろう」

しかし、あれからたったの2日
それであそこまで躰けるとは……

おそらく、トレーナーとしての実力は俺よりあのミズキとかいう男の方が上だろう
ポケモン自身は普通なのは見れば分かるが、トレーナーの力で数段強く感じる

レッドみたいに仲良し、俺みたいに厳しく育てただけではあれほど躰けるのは不可能
どうやって鍛えたのか……気になるな。

「にしても、嫌味な奴だったな」

「それには同意する
お前と同じ意見なのは癪だが」

「む……」

どうやら俺の言葉にレッドは腹を立てたようだ
気に入らないのは俺も同じだがな。

俺とレッドは先ほどの会話を最後に別れる
お互いに言葉は不要、自分達のする事は決まっているからだ。

だが俺は少し路線を変更しよう
もっとトレーナーとしての実力を上げなければならない
ポケモンを上手く操る、それができなければ再びミズキに負ける！

さて、どうするか……ポケモンを鍛えるだけじゃなく、俺自身も鍛
えるかな？

昔を思い出すが、今はそんなことを考えている場合じゃない
心も、体も、頭も鍛えなければならないんだ
時間はどれだけあっても足りない！

今はジムとか捕獲は少し後回しだ
それよりも己とポケモンを鍛える
あんな圧倒的に負けたんだ、次は必ず勝つ！

2話【VSサイドン】（後書き）

“かなしばり”はどういう効果になっているの？

文字通り金縛り状態にしています

どういう原理で技を封じているのか謎です。

サンドやディグダは地面タイプじゃないの？

漫画でもカラカラ、サンドが相手として出てきます

なので問題無いかと。

帽子と棘はともかく、着物の女って誰？

ポケットモンスターアニメの無印

セキエイリーグ4回戦のサトシの対戦相手で、名前はカオルコ
性格は派手好き、気品は有るが強気です

使用ポケモンはスピーアー、ストライク、マダツボミです

知っている人は知っている、あのマダツボミの踵落とは……

きっとアニメを観ていた半数以上の人が唖然としたでしょうね。

グリーン戦ってあったの？

漫画上に存在しません

なので自分で予想して書いてみました

きっとグリーンならクールにこんな感じで戦ってくれると信じた。

タケシがゴローニャやサイドン？

他に候補が無かったからです

地面タイプでも良かったんですが、なんとなく嫌でした

しかし変に強化し過ぎるのもアレなので、ジム戦用のイワークとゴ
ローニャ

そして私的用のサイドンを出し、漫画上で出ない理由を作りました

……タケシが使うポケモンの絶対数が少ないのが悪いんです。

観客席からの2種類の声って？

レッドとグリーンです

見覚えのあるガルーラを見て驚いています。

子ガルーラが技を！？

あの子もガルーラです、技を使えても不思議じゃない……と、思います

他に子ガルーラに技を使わせた小説が有ったら教えてください是非読んでみたいので……でも、そうそう滅多に無いだろうなあ。

もしかしてガルーラを使用ポケモンに入れたのって……

この為です、思ったより早く使ってしまった

今回は仕方無いのですが、本当ならもっと後に使いたかったです。

なんて酷い喧嘩だ……

下手すれば虐めのレベルです

しかし、ミズキの言い分に間違いは（多分）ありません。

“ソーラービーム”のチャージ時間は？

気にしない、漫画1巻2話みたいな理由にして気にしませんつまり、日の光さえあれば即発射が可能と……多分。

ミズキの戦い方が……

アニメっぽい？ 気にしたら負けです

漫画でガチバトルは殆どありませんので難しいんですなのである程度は容認してください。

グリーンが燃えてる……

あの性格です、嫌でもミスキは意識してしまう相手でしょう
なのでレッドはライバル、ミスキは倒すべき壁
きつとグリーンの中ではこんな感じです。

……そういえばカオルコは？

単なるゲストキャラです

遊戯王で言う瑞貴と明日香や、ネギま！で言う瑞貴と木乃香
そんな関係を期待していた人、予想は大ハズレです、残念でした
まあ、再登場しないとは限りませんが……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2894w/>

本気希望自己制限世界

2011年10月25日01時06分発行